



2024年5月9日

各 位

会社名 株式会社 駅 探
代表者名 代表取締役社長 金田 直之
CEO 兼 COO
(コード：3646 東証グロース)
問合せ先 取締役 CFO 小嶋 勝也
(TEL. 03-6367-5951)

特別損失（減損損失）、法人税等調整額の計上および2024年3月期通期連結業績の 前期実績値との差異ならびに個別業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2024年3月期第4四半期会計期間において、特別損失（減損損失）および法人税等調整額を計上いたしました。また、2024年3月期の通期連結業績ならびに通期個別業績につきまして、前期実績との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせします。

記

1. 特別損失（減損損失）の計上について

当社事業の柱であります乗換案内等の有料会員サービスは、コモディティ化によりその収益が継続的に減少しており、新たな柱となる事業創出が急務となっております。このような事業環境下において、2021年5月11日に公表いたしました中期経営計画に従い、当社事業資産を最大活用し、「地域の生活者のニーズ」と「地域の事業者の提供サービス」を結びつけ、新たな収益の柱を創出する、各事業セグメントを包括する取り組みである「地域マーケティングプラットフォーム」構想実現に向けて、着実に施策の実施を進めてまいりました。

その後、乗換案内等の有料会員数の減少傾向は変わらない状況が続き、当サービスにおいて、減損の兆候が認められ、将来の回収可能性を検討した結果、2024年3月期第4四半期において、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、同サービスに係るソフトウェアについて減損損失62百万円を特別損失に計上することといたしました。

なお、本日公表しました「2024年3月期決算短信〔日本基準〕（連結）」の通り、乗換案内サービスにおいて、厳しい状況は続いておりますが、「地域マーケティングプラットフォーム」構想の実現による収益拡大、ポートフォリオ強化によるM&Aの業績貢献により、2025年3月期の業績については、増収増益を予想しております。

2. 法人税等調整額の計上について

2023年11月9日開示の顧客関係資産およびソフトウェアについて減損損失に伴い、繰延税金負債を取り崩したことなどにより、法人税等調整額△129百万円を計上いたしました。

3. 2024年3月期通期連結業績の前期実績値との差異（2023年4月1日～2024年3月31日）

	売上高	EBITDA※	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績値 (A)	3,206	296	105	104	89	17.04
当期実績値 (B)	4,038	184	23	27	△736	△152.02
増減額 (B - A)	832	△112	△81	△77	△826	△169.06
増減率 (%)	26.0	△37.8	△77.5	△73.7	—	—

※EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費

2024年3月期通期個別業績の前期実績値との差異（2023年4月1日～2024年3月31日）

	売上高	EBITDA※	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績値 (A)	1,561	209	122	135	120	22.83
当期実績値 (B)	1,408	34	△39	△14	△946	△195.40
増減額 (B - A)	△152	△175	△162	△149	△1,066	△218.23
増減率 (%)	△9.8	△83.7	—	—	—	—

※EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費

4. 差異の理由

2024年3月期通期の連結業績につきましては、当社グループの柱であります乗換案内等の有料会員サービスは、コモディティ化等の市場環境の影響による有料会員の減少傾向に伴い、当サービスにおける収益は継続的に減少しており、新たな柱となる事業創出、ポートフォリオ強化が急務となっております。その一環として、2022年11月にプラウドエンジン株式会社、2023年4月に株式会社駅探 I&I を連結子会社にしたことにより、売上高は大幅に増加しました。

一方、利益面では、第2四半期連結累計期間までは、有料会員サービス収益の減少、株式会社サークアの取り巻く環境の厳しさが増したことが影響し、低調な業績となりました。しかし、第3四半期連結会計期間において、株式会社サークアにおける体制見直しや経費圧縮によるコスト削減の実施、また、新たなジャンルの商材による収益貢献もあり、株式会社サークア単体における業績は黒字化を実現いたしました。更に、チケットレス出張手配サービス「BTOonline」の改修作業の収束、のれん等の無形固定資産の減損による減価償却費の圧縮があり、第3四半期連結会計期間以降におけるグループ全体の営業利益は97,741千円、経常利益は99,034千円と大幅に改善致しました。

親会社株主に帰属する当期純利益については、当連結会計年度において、乗換案内サービス、株式会社サークア、新規サービスであります「駅探 PICKS」、の将来キャッシュ・フローの見積もりを行った結果、のれん等の無形固定資産の回収は困難であると判断し、855,627千円の減損損失（「1. 特別損失（減損損失）の計上について」の減損損失金額62百万円を含む）を特別損失に計上したため、大幅な赤字計上となりました。

また、2024年3月期通期の個別業績につきましても、前述しました有料会員サービスにおける収益の継続的な減少に加え、減損損失等の特別損失の計上により、売上高、営業利益、経常利益ならびに当期純利益において、前期実績値を下回る結果となりました。

なお、配当金につきましては1株当たり14円の期末配当を予定しており、前回公表予想からの変更はありません。

以 上